地域情報（県別）

【東京】葛飾北斎や谷文晁が学びに訪れた創業250年の由緒ある医院-名倉直重・名倉医院副院長に聞く◆Vol.1

初代は接骨医になりたかった谷文晁を説得して画家に導く

m3.com地域版

1770年に東京・千住の地で創業した整形外科の名倉医院本院。9代目の名倉直重氏は250年以上の歴史を誇る同院で副院長、分院の名倉医院駅前クリニックで院長を務めている。わずか10年前に敷地内の蔵から発掘された数々の絵画や手紙により、歴史上の偉人と名倉家のつながりが明らかに。先人の志を受け継ぎながら、最新医学との融合も目指す名倉氏に話を聞いた。（2023年6月19日インタビュー、計2回掲載の1回目）

▼第2回はこちら（近日公開）

名倉直重氏（名倉氏提供）

――名倉医院の歴史について教えてください。

柔術と剣術で免許皆伝の腕前を持っていた名倉直賢が、「骨接ぎの術」を会得して1770年に千住の地で開業したのが始まりです。時は西洋医学が公認される前で、直賢は漢方も学んでいました。1772年に起きた明和の大火（目黒行人坂の大火）で怪我人の治療に当たり、人助けに使命感を抱くようになったそうです。当院の医療法人社団名は、明和の元号と名倉の「名」にちなんで、「名和（めいわ）会」といいます。

代々、文化人との交流があり、葛飾北斎が骨格や人体の絵を描くために当院で描き方を学んだことや、当初は接骨医になりたかった谷文晁に画才があったため、直賢が「画家の方が向いているよ」と勧めて画家になった話などが記録に残っています。文晁と直賢は、文晁が自分の描いた絵を治療費の代わりに置いて行ったり、一緒に千住の酒合戦に行ったりと、かなり親しい間柄だったようです。

その他にも、当家が徳川第12代将軍・家慶の時代に鷹狩の休憩所に選ばれたことや、榎本武揚がやって来たこと、千住で医院を開業した父親を手伝っていた森鴎外と交流があったことなどが明らかになっています。

名倉医院 本院

――そうそうたる偉人との逸話が本当にたくさん残っていますね。

　自分の先祖と偉人たちにつながりがあったというのは、実に興味深いですね。その時代、時代の画家たちが遺した絵や手紙が発見されたのは、ほんの10年前なのです。ずっと医院の敷地内のお蔵に眠っていて、祖母が整理したら出てきました。学芸員に鑑定してもらったところ、こうしていろいろと明らかになったのです。この千住の地で文晁や村越其栄といったそれぞれ独立して頑張っていたと思われていた画家たちが、名倉医院の周りでサロンのように集まりみんなが交流していたという事実には驚きました。見つかった絵は幸いにも良い状態で残っており、現在は博物館で管理してもらっています。

――名倉医院本院と名倉医院駅前クリニックの違いは。

　どちらも整形外科とリハビリテーション科を標榜しています。本院は昔からの地元の患者さんや高齢者が多い傾向で、「昔ながらの雰囲気が好き」と言って来てくれています。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響もあるのかもしれませんが、そういった患者さんがだんだん減ってきているので、お亡くなりになっているのかもと心配しています。

　本院の特徴としては、初代の直賢が開発した「黒膏」をいまだに使いたいという患者さんがいますので、ご提供しています。和紙に塗って骨折や打撲の患部に当てる、ニワトコの木を主材料とした練り薬です。熱を吸収して湿布にもなりますし、硬くなるので添木代わりにもなります。直賢の時代、この「黒膏」が有名になって関東一円から患者さんが来院するようになったんですよ。

　駅前クリニックは駅前という場所柄、幅広い年齢層の患者さんが来院します。こちらの方が、地域医療連携を密に取っているので重症の患者さんも多いです。駅前クリニックでは、慶応義塾大学医学部が開発した最新の歩行解析計を今年5月に導入しました。主に変形性膝関節症の患者さん向けや、その一歩手前にいる人に正しい歩き方を知ってもらうために役立てています。数値の大きさで膝の内側にかかっている負担がわかります。普段はなかなか歩き方に意識が向くことはないと思うので、数値化はわかりやすく有効です。

江戸時代から使われていた旧診療所（名倉氏提供）

――名倉先生は幼い頃から家業を継ぐと決めていたのですか。

実は、最初は医師になろうとは思っていなかったのです。英語が好きだったので、高校2年生頃まではずっと英語の教師になりたいと思っていました。幼稚園から大学まで一貫教育の学習院に通っていたので受験する気もなく、部活もバレーボール部を高校3年生まで続けていました。文学部に行くつもりでしたね。

ところがある日、友人から電話で「英語が好きだから英語の先生になりたいというのは短絡的すぎる」と言われたのがきっかけで思い直すことになりました。8代目の医師の父からは「医者になれ」とは言われていませんでしたが、周りからはなんとなく「医者になるのかな？」と思われていることは感じていました。

そうして一念発起し、東邦大学医学部に入学しました。幼い頃から父の背中を見てきて、整形外科が面白いと思っていたので自然と整形外科医を目指しました。卒業後は北里大学病院に入局し、整形外科専門医の資格を取得。北里大学大学院医療系研究科で博士課程を修了し、今は父と2人で「名倉医院 本院」で診察しています。私は、「名倉医院 駅前クリニック」での診察がメインです。

◆名倉 直重（なぐら・なおしげ）氏

2008年東邦大学医学部卒業。2010年北里大学病院整形外科入局。2015年丘整形外科病院出向。2019年同大学大学院医療系研究科博士課程修了。現在名倉医院副院長、名倉医院駅前クリニック院長。

【取材・文・撮影＝賀来比呂美】

記事検索

ニュース・医療維新を検索